

## みんなで作ろう！ 百科事典ネットワーク

小学校，中・高学年，総合的な学習/情報・環境領域

北海道赤井川村立都小学校 都築愛一郎

学校ホームページ <http://www7.ocn.ne.jp/~miyasho/>

キーワード 地域調べ，地域の教育資源，テレビ会議，百科事典作り，学校間交流

### 1. はじめに

「個」による主体的な学習活動が中心となる「総合的な学習」では，学習テーマや学習活動がばらばらになり，児童間で共有化することや学年間で積み重ねることが難しい。そこで本実践では，インターネット上での「百科事典作り」を大きなテーマと設定することで，学習の共有化・積み重ねを果たすことができるのではないかと考えた。

また，本校は全校児童 14 名の小規模へき地校であり，児童は同学年の子どもたちと共に学習する機会をほとんど持っていない。インターネット上の「百科事典作り」を協力校と同時に進め交流していくことで，小規模へき地校の問題の解決を試みようと考えた。

さらにインターネットは公開性，双方向性に特徴があり，その特徴を「百科事典」の「ネットワーク」は，さらに推し進めるものと考えた。

### 2. 実践のねらい

#### (1) ねらい

- 百科事典作りの過程を通して，児童一人ひとりが，みやっこタイム（総合的な学習の時間の名前）の 5 つの力「見つける，調べる，まとめる，伝える，ふりかえる」(\*)を身につける
- 児童が，協力校の子どもたちとネットを通して交流することによって，共に学習活動を高めあう喜びを感じる
- 自分たちが生活している地域のよさを知り，ふるさとを愛する心情を培う

#### (2) 指導目標

(\*)みやっこタイムの 5 つの力の定着

A 見つける力	百科事典を作るためのコンテンツ（事典の見出しとなる題材）を探すことにより，身近にあるがこれまで気づけなかった事象に気づくことができる力
B 調べる力	いろいろな方法で自分が見つけ出したものを追求することによって，問題解決に対する継続的な取り組みができる力
C まとめる力	自分が追究したものを順序良く整理し，取捨選択する力
D 伝える力	自分がまとめあげたものを，さまざまな方法を通して相手に伝える力 また，伝えることを通して，自分の考えに自信を持ち，相手を尊重する態度を持てる力
E ふりかえる力	自分が学習してきた成果を整理することを通して，自分の考えを修正し，その考えに自信を持つことができる力

### 3. 実践の概要

#### (1) 百科事典データの作成

本校は今年度研究テーマを「ふるさと」と設定しているため，百科事典として調べる内容も，「ふるさと」をテーマとして，主に「稲作」「地域の歴史」について行った。

学習は，地域の史跡や水田を観察し発見したものについて調べていくという流れで進んだ。子どもたちは，発見したものをデジタルカメラで撮影し，それについて分からないことを，図鑑やインターネットで調べたり，地域のお年寄りに直接聞いたりして調べた。

調べたことは学習段階でメモしておき，それをまとめて百科事典の形式のワークシートに鉛筆で記入した。そして，その記入したワークシートをあらかじめ作っておいたワードのテンプレートに子どもたちが打ち直し，画像を貼り付けて，HTML 化した。これは，児童が考えながらローマ字をキーボードに打ち込むことが難しかったからである。子どもたちが，まとめ，HTML 化した百科事典のページは，担任がまとめ，学校のホームページにアップした。その際，検索しやすいように事典検索のページを作成した。前年度から継続して取り組んでいた内容も含め，現時点（2002 年 1 月）では，70 ほどの百科事典データがアップされている。

#### (2) ホームページを活用した発表

百科事典のデータや学習への取り組みを中心に作成したホームページは，参観日などで学習の様子をプレゼンテーショ



図 1 史跡調べ

ンする場で活用した。特に学芸会では支援して下さった地域の方や保護者が大勢参観している中で、完成した百科事典をスクリーンに投影したり、学習の様子を劇にして発表したりした。

### (3) 100ka-net を利用した他学校との交流

本実践のねらいの一つに、百科事典作りを他校と協力して行い、交流することがある。そのためには、各学校の百科事典のページをリンクする扉となるホームページが必要となったので、学校ホームページとは別に、2001年12月に「100ka-net ホームページ」を作成した。「100ka-net」とは、百科事典ネットワークのためのホームページの意味である。

ルールや取り組み方の大枠を決めた後、メーリングリストなどを用いて、参加者を幅広く求めた。現在(2002年1月)のところ、本校、愛知県半田市立亀崎小学校、宮崎県宮崎市立本郷小学校、鹿児島県大島郡瀬戸内町立古仁屋小学校とリンクし、また稚内の個人の方も参加している。



図2 100ka-net ホームページ

### (4) 名護小学校との交流

本実践では、同じ百科事典作りをしている学校との交流が重要な学習活動の1つであるが、交流校探しが難航した。

2学期に入りなかなか交流校が見つからず困っていたところに、国際交流をねらいとしたホームページ「マルチメディアキッズフォーラム(MMKF)」の事務局の方から、同ホームページの「マルチメディア百科事典」の紹介のメールをいただいた。検討の結果、「マルチメディア百科事典」にデータを提供している沖縄県名護小学校6年生を紹介していただき、交流を開始することとなった。



図3 名護小学校の児童にメールを出す4

交流は「マルチメディア百科事典」のコメント機能を利用して始まった。百科事典の内容について、掲示板のようにコメントを書き込めるのである。最初は、本校の児童が名護小学校の事典について、質問や感想をコメントとして書き込んだ。交流は児童同士のEメールのやり取りとなり、さらに

2月8日に行われた研究発表会では、北海道と沖縄県をつないだテレビ電話会議に発展した。内容は、お互いの百科事典を比べあい、百科事典を作るときに重要なことを来年の学習者に向けて共有化するというものである。テレビ電話会議では、沖縄と北海道という地理的な条件の違いから、子どもたちからそれぞれの自然の様子を中心としたクイズが出され、交流が進んだ。今後も百科事典作りを進めていく中で、交流することを確認して、会議を終えた。

## 4. 成果と課題

コンピュータ・インターネットをさまざまな学習活動場面で導入した成果は、児童の基本的なコンピュータ操作技能の向上、インターネットモラルの向上、そしてメールやテレビ会議を通じたコミュニケーション能力の向上となり表れた。名護小学校との交流から、児童は自分たちの今までの学習の外へ飛び出すことができた。この経験は、小規模へき地校の学習のハンディを乗り越えるための大きなヒントになるものだと考える。

情報能力の育成や単なる交流が目的ではなく、それらの活動を通して、どのような力を子どもたちにつけさせたいのか、という視点が重要である。

「100ka-net」を立ち上げ交流の場を設定し、またさらに交流の場を求めて、マルチメディアキッズフォーラムとも連携し、日本各地の学校と交流をすることができ、改めてインターネットでのコミュニケーションの可能性の広さを感じた。本実践は、インターネットなくしては成立しない実践である。

100ka-net の取組みは参加者が2002年1月現在で、4校と1個人という状態である。「百科事典」としては、より多くの参加者を求め、数多くのデータとリンクしていきたい。